

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所るれいるーむ・放課後デイサービスるれいるーむプラス		
○保護者評価実施期間	R8年 3月 1日 ～ R8年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36 (回答者数)	23
○従業者評価実施期間	R8年 3月 1日 ～ R8年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚的支援を活用し、子どもが安心して過ごせる環境作り。 (タイマーやホワイトボード等を使い、見通しを持てる環境を整えています)	時計やタイマー、ホワイトボードの活用による視覚的な見通し の提示や、個々のペースに合わせた丁寧な関わりにより、生活習慣の定着と子どもが安心して過ごせる環境作りを行っている。	引き続き、こども一人ひとりの特性に合わせた視覚支援や環境設定を行い、自己肯定感を高めながら苦手の活動にも少しずつ挑戦できるような支援を継続・充実させる。
2	特性に寄り添う丁寧な関わりで、子どもの自己肯定感を育む。 (一人ひとりに合わせた支援で、苦手なことへの挑戦を支えています)	長期休みのバラエティに富んだプログラムや、こどもだけで作れる簡単なおやつ作りなど、こどもが飽きずに楽しめる多様な活動を提供し、成功体験に繋げている。	こどもたちの興味・関心をさらに引き出すような新規プログラムの開発や、楽しみながら自立を促す活動のバリエーションを継続的に増やしていく。
3	こまめな様子共有と迅速な避難誘導による、高い安心感。 (おたより帳での連携や、非常時の迅速な対応が評価されています)	おたより帳を通じた日々の様子の丁寧な共有や、非常時(津波警報時等)の迅速な避難誘導など、保護者が安心して預けられる連携体制と安全管理を徹底している。	保護者との双方向のコミュニケーションをさらに深め、家庭での様子も踏まえた一貫した支援を行うとともに、定期的な防災訓練等で安全対策を維持・強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への日々の活動内容の周知や見学会の提供が不十分な点。	「活動自体を十分に拝見したことがない」というご意見があるように、保護者が事業所での日常的な活動の様子を直接見学したり、具体的に把握したりする機会が不足している。	活動の様子を伝えるおたよりのさらなる充実や、写真・動画等での定期的な共有、または保護者が見学・参加できる機会(参観日やイベント等)の検討・実施を行う。
2	集団行動が苦手な児童への事前のフォローやプログラムの工夫。	集団行動や目立つことが苦手なこどもにとって、カレンダーの予定(集団プログラム)がプレッシャーとなり、通所への意欲低下につながることもある。	集団活動への参加を無理に促さず、個別のペースで取り組める代替活動(個別プログラム)を用意する。また、事前の丁寧な説明やスモールステップでの参加を促す工夫を行う。
3	保護者が気兼ねなく相談でき、心理的負担を軽減する支援の不足		常に保護者の些細なご意見にも耳を傾け、アンケート以外でも日常的に相談しやすい体制づくりを継続する。